



「健康コラム」名医が語る・お母さんへの手紙

溶連菌感染症について

最近ちょっとした流行があり、高熱とどの痛みでインフルエンザと誤って受診することも珍しくありません。のどが真っ赤なので溶連菌の検査をします」と言っていると、すごく怪訝な顔をしますが、検査結果を聞いてインフルエンザじゃないとびっくります。今回はこの溶連菌感染症について考えてみましょう。

溶連菌感染症は、ウイルスではなく、A群β溶血性連鎖球菌が原因です。中耳炎や皮膚の感染症も起こしますが、ここでは咽頭炎・扁桃炎について説明します。飛沫により感染し、潜伏期は2～5日です。発症のピークは4～6歳で、比較的大きい子にみられます。季節は定しません。が、10月～3月、初夏に多いとされています。

症状は、発熱、咽頭痛及び発疹(紅斑)です。突然の38℃以上の発熱と咽頭痛から始まり、1～2日遅れて発疹が出現します。風邪と違って、鼻水や咳などの症状はありません。発疹は細かい紅斑で、頬・わきの下・大腿内側(ちようごパンツをはいている部分)から全身に広がります。3～4日目には、いちご舌と呼ばれ、舌の赤みとぶつ

ぶつが目だってきます。7日を過ぎる頃に、手足の先端部分の皮がむけることがあります。

溶連菌感染症で、最も重要なことは合併症です。感染後2～3週で、腎炎(急性糸球体腎炎)やリウマチ熱を発症する場合があります。腎炎は倦怠感、血尿や浮腫などの症状で発症し、リウマチ熱は高熱で発症し心臓弁膜症の原因となることもあります。これらの合併症は、一生の問題となるため注意が必要です。

診断に関しては特徴的な症状なので症状だけでも可能です。しかし合併症を考えると、確定診断が必要なため、疑わしい場合は溶連菌の迅速検査を行います。

治療は抗生物質で、第一選択はペニシリン系ですが、セフェム系の抗生物質も使用されます。適切に治療を行えば3～4日の経過で比較的容易に治癒します。しかし腎炎やリウマチ熱の予防のためには10日間の予防内服が必要です。

学校の出席停止の基準はありませんが、治療による発熱消失後1日以降であれば、出席可能

と判断されています。

合併症の早期発見も重要です。腎炎の場合には尿に変化が見られるため、感染後2、4週間目に尿検査を行うことが一般的です。小児科以外で診断を受けた場合に尿検査を指示が無いことがありますが、早期発見のために必要な検査です。

腎炎やリウマチ熱は、一生の病気です。それを考えると溶連菌感染症も怖い病気の一つです。症状が思い当たる場合は病院を受診し、診断を受けたら決められた通りに抗生物質を服用し、合併症の早期発見のために必ず尿検査を受けましょう。

【仙台市医師会学術奨励賞受賞】

新型インフルエンザパンデミックに際し、小児科診療所医療従事者の新型インフルエンザの発症並びに不顕性感染の調査研究を約6ヶ月行い、医療従事者の新型インフルエンザ感染率を調べ、一般市民と比べて医療従事者の感染率が高かったことを明らかにされました。このような医療従事者を対象とした長期間にわたる研究は無く、現状の蔓延防止対策に警鐘を鳴らすだけでなく今後のインフルエンザ感染対策に参考にすると高く評価されており、さらに、日常診療多忙の中、仙台小児科医会の会長として会の先頭に立ち、予防接種普及の署名活動を行うなど市民のための活動にも情熱を注いでおられます。また、保育所嘱託医(保育士研修会)の講師などを務められ、会員のみならず医療・保育従事者の生涯教育に貢献されました。

※仙台市医師会受賞者プロフィール原文のまま

小児科専門医 川村 和久

仙台市在住。医療法人社団かわむらこどもクリニック(仙台市)院長。日本一の小児科サイトを運営。「お母さんの不安・心配の解消」を開業理念として、様々な子育て支援活動に取り組んでいる。院内報、HP、医療相談、育児サークルなどのユニークな活動が評価され、第1回広報企画賞受賞(NPO HIS研究センター)。生活ほっとモーニング(NHK)等で、活動が紹介。仙台小児科医会長。宮城県小児科医会副会長。日本外来小児科学会理事。http://www.kodomo-clinic.or.jp/